

一日 1 時間で年間 200 万円
稼ぐための立ち回り術



大市民

■著作権について

このファイルは、著作権法で保護されている著作物です。
使用に関しましては、以下の点にご注意ください。

■使用許諾契約書

本契約は、本ファイルを購入した個人・法人(以下、甲と称す)と発行者(以下、乙と称す)との間で合意した契約です。本ファイルを甲が受け取り開封することにより、甲はこの契約に同意したことになります。

第1条本契約の目的

乙が著作権を有する本ファイルに含まれる情報を、本契約に基づき甲が非独占的に使用する権利を承諾するものです。

第2条禁止事項

本ファイルに含まれる情報は、著作権法によって保護されています。甲は本ファイルから得た情報を、乙の書面による事前許可を得ずして出版・講演活動および電子メディアによる配信等により一般公開することを禁じます。

第3条契約の解除

甲が本契約に違反したと乙が判断した場合には、乙は使用許諾契約書を解除することができるものとします。

第4条責任の範囲

本冊子の情報の使用の一切の責任は甲にあり、この情報を使って損害が生じたとしても一切の責任を負いません。

<目次>

はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P3

物理的な攻略が可能だった昔のパチンコ台と“ボーダー理論攻略”の台頭・・・P6

客を負けさせるための罠（あなたはパチンコ業界に騙されている）・・・・P7

いかにして客からより多くのお金を搾り取るか・・・・・・・・・・・・・・・・P10

ホールが仕掛ける出玉のメリハリを見極めることが、勝ち組への第一歩・・・P13

メーカーが作る昨今のパチンコ台の特徴・・・・・・・・・・・・・・・・P16

初物ロットとは？・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P18

一日1時間で年間200万円稼ぐための立ち回り術・・・・・・・・・・・・P21

最後に・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P43

はじめに

こんにちは、大市民です。

このマニュアルはタイトルにあるように、一日わずかな時間パチンコを打ち、年間200万円の収入を得るための立ち回り方法を書いたものです。

そしてこのマニュアルのキモとなるのがまさに、「一日1時間」という部分。

一昔前であれば、「パチンコは粘りと根性だ！」なんていうこともよく言われたものですが、それはパチンコがアナログだった時代の話で、今では全く通用しません。

それどころか、長く打てば打つほど負けてしまう可能性が高くなってしまいうのが、今のパチンコであると言えます。

それなのに、いつのまにか変わってしまったパチンコの正体に気付かずに、あるいはパチンコ雑誌や漫画などに書いてある内容に騙されて、一日何時間もパチンコを打ち続ける人のなんと多いことか。

私はこれまでに1500通を超えるメールを読者さんから頂きましたが、毎日のように長時間パチンコを打つヘビーユーザーで、なおかつ負け組の人というのは、平均して年間50万円～60万円ほどのお金をホールに取られているようです。

これって、凄いいことだと思いませんか？

20年も30年もパチンコを打ってきた人であれば、立派な蔵が建つくらいの金額を、パチンコという娯楽に費やし続けているということなのですから。

よほどのお金持ちの人であればいいかもしれませんが、そうでない人が毎年これだけの金額をパチンコに費やしているとすれば、これは大きな問題です。

はっきりと断言しますが、パチンコは“勝てるギャンブル”です。

そして世の中の多くの人が“パチンコの勝ち方”を知らないがために、負けているに過ぎません。

私にはこれまで、50以上の高額なパチンコ教材を購入してきた経験があります。

また、パチンコに関する書籍についてはほぼ全て購入して読破し、それだけでは飽きたらず、業界人しか入手することが出来ない高額な店長向けのマニュアルや、DVDなども手に入れてきました。

そしてそれらの内容を全て読み、実際ホールに毎日のように出かけては、それらのものから得た知識を元にパチンコを長年打ってきたという経験があります。

そういった長年の努力が実り、今ではパチンコから結構な収入を得ることが出来るようになりました。

そんな私の経験から言わせてもらえば、パチンコで勝ち組になるのは、実はとても簡単なことなのです。

そして、とても簡単だからこそ、逆に難しいと言えるかもしれません。

なぜなら人は、物事を難しく考えるクセを持っているため、「あれや、これや」といろいろと試行錯誤を繰り返し、結果、本質が見えなくなってしまう。

これはなにも、パチンコだけに限った話ではありません。
物事の本質というのはいたってシンプルなものであり、そのこと自体は難しいことなんて何もありません。

じゃあ、一体何が難しいのかというと、それは

“その、いたってシンプルなことを愚直にやり通す行動力、あるいは達成力”
なのです。

パチンコにおいて何が正しくて、何が正しくないのか？
そしてどう行動することが、長い目で見て収支プラスに繋がるのか？

その点について、このマニュアルでは明確に提示しています。

このマニュアルに書いてある通りにあなたが行動すれば、結果は必ず付いてくるはずです。

ただし、“パチンコで勝つための正しい行動”をあなたがこのマニュアルを読んで知ったとしても、それを愚直にやり通す達成力が無ければ、パチンコでの勝ち組への壁を乗り越えることは難しいでしょう。

そのところがまさに、今のパチンコで勝ち組になることが難しい理由です。

物理的な攻略が不可能になった今のパチンコは、言ってみれば“空間的な攻略”が必要となっています。

物理的な攻略というのはとてもわかりやすく、“今日、必ず勝って帰ることが出来る攻略”と言うことが出来ます。

一方、“空間的な攻略”というのは、今日、勝つか負けるかはわかりません。時には運にも左右されるし、また、時には「本当にこれでいいのだろうか？」と不安になることもあるでしょう。

それでも、正しい行動を続けてさえいれば、必ず結果は付いてきます。

そして正しい行動をずっと続けていたら、なんだかよくわからないけど大きく勝っていた・・・というのが、“空間的な攻略”の特徴だと言えます。

その根拠についても、このマニュアルの中でキチンと説明していますから、少なくともあなたは「なんだかよくわからない」と思うようなことはないはずです。

いずれにしても、今のパチンコというのは、“今日、必ず勝てる”というような物理的な攻略は不可能なので、毎日勝ったり負けたりを繰り返しながら、トータルで勝つという考え方を持たないといけません。

だからこそ、一日の勝ち負けで一喜一憂せず、長い目で見るという意識が常に必要となってきます。

ここまで読んで頂ければ、先ほど上で書いた、

・パチンコで大事なのは、“いたってシンプルなことを愚直にやり通す行動力・達成力”

・パチンコで勝ち組になることは、実はとても簡単で、そして難しい。

という言葉の意味が、わかっていただけたのではないのでしょうか？

この部分は本当に大事なので、常に頭に入れておいてほしいと思います。

物理的な攻略が可能だった昔のパチンコ台と、“ボーダー理論攻略”の台頭

昔のパチンコ台であれば、物理的な攻略が可能な時代もありました。

それは、台の特性に着目した止め打ちで“ムダ玉を減らす方法”であるとか、プログラムの欠陥を突いた“強制連チャン打法”だったりしました。

しかし、メーカーもバカではありませんから、今ではそのような物理的に攻略される余地のある台を作ることは無くなりました。

その後、物理的な攻略の余地が無いデジパチが主流になると、今度は“ボーダー理論攻略”というものが、もてはやされるようになります。

ボーダー理論をご存じない方のために簡単に説明すると、千円あたりの回転数からその台の大当たり確率と出玉との比較から損益分岐点を割り出し、それ以上回る釘の台を見つけて長時間打つことで、長期的に見ればパチンコは勝てるというのがボーダー理論の勝てる根拠となっています。

この必勝理論は20年以上前から存在するもので、確かに昔はこのボーダー理論攻略で食っているパチプロも大勢いました。

しかし、今のパチンコは「単によく回るから」という理由だけで勝てるようなものではなく、かつては掃いて捨てるほどいた“ボーダー攻略プロ”は、ほとんど全てが淘汰されてしまったという現実があります。

これは考えてみれば当然のことで、ホール側からすればパチンコという娯楽をもっと若い世代や女性に広く知ってもらわなければ業界にとっての将来は無い

のに、一部のガラの悪いパチプロに一日中ホールに居座られてしまうと迷惑なわけです。

となれば、彼ら不良客である“ボーダー攻略プロ”を排除するために、何らかの対策をホールなりメーカーなりが取ることは、自然の成り行きだといえるでしょう。

“ボーダー理論攻略”も、非常に分かりやすく理論的に説明できる“物理的な攻略法”であるといえます。

実は私もこれまでに、ボーダー理論攻略を実際にホールで何度も検証した経験があります。

しかし、理論的に完璧であるはずのボーダー理論攻略で毎日のようにパチンコを打っていると、打てば打つほど負けが膨れ上がり、気が付けば驚くほどの金額を負けてしまったという苦い経験があります。

このことからわかるように、今のパチンコというのは、昔のパチンコとは全く別のロジックで動いています。

そして、“物理的な攻略”は、もはや今のパチンコでは通用しないということを知っておいて下さい。

客を負けさせるための罠（あなたはパチンコ業界に騙されている）

パチンコで勝ち組になろうと思えば、しかるべき行動を取る必要があります。

「この台、履歴から見るとそろそろ大当たりしそうだな」という理由だけで目の前の台に座り、大当たりを引くまでお金を使うというような方法では、いつまでたっても“搾取される側”から抜け出すことは出来ません。

そもそも今のパチンコ経営というのは、新台の導入費用などで莫大なランニング・コストがかかります。

その費用を全て客から搾り取らないといけないのですから、そのために客がドンドン湯水のようにお金を使うよう、さまざまな工夫が今のパチンコには仕掛

けられています。

パチンコ業界の市場規模は約20兆円。

これは国内における超巨大産業といえる規模です。

これだけ巨大な市場ともなると、例外無く国民に対する印象操作が行われていると言っても、そう遠くはありません。

実際、国内の巨大市場と呼ばれる業界には、国民に対する様々な印象操作が行われているのが現実です。

例えば、医療業界では抗がん剤治療やワクチン注射などが当たり前のように正しいと報じられています。

とくにワクチン注射などは子供の頃に強制的に受けさせられる制度になっており、それを疑う人は最近まで誰一人いませんでした。

しかし、インターネットが普及するようになり、海外事情を含む様々な情報を個人レベルで入手することが出来るようになると、それらの危険性や有効性の有無などを指摘する医師の存在が決して少なくないことを知ることができ、結局はそれらが国民のためではなく、ビジネスのためだということがわかるようになってきました。

そして、パチンコ業界における印象操作はどのようなものかといえば、ズバリ、

- ・パチンコは、その機種の基本スペックに基づいた確率で常に動いている。
- ・釘の良い台を長時間打てば、パチンコは勝てる。

というものです。

しかしながら今のパチンコは、当たらない時はいくら回しても当たらないし、そんな時にガンガン回していれば、お金がいくらあっても足りません。

確かにパチンコにおいて、よく回る釘の台を打つという確率論は一見、正しいように感じられるし、理論的にも正しいと思われるかもしれませんが。

しかしそれはホールに設置されるまでの台にしか通用しない理論であり、ホールに設置された時点で、もはや通用しなくなってしまうというのが現実です。

そのことを証明する面白いエピソードを聞いたことがあるので、少し紹介しておきましょう。

ある人の旧知の人物に、関東一円に店舗を有するパチンコ・チェーンのオーナー社長がいました。

そのオーナー社長は在日という出自に由来するためか、温厚ではあるけれども、寡黙で余計なことは一切喋らない人物とのこと。

しかし、ある酒の席で2次会～3次会へと流れ彼の警戒心が薄れてきた頃合いを見計らって、「パチンコという遊技に関する作為の有無」という点について聞いてみたというのです。

するとそのオーナー社長は、パチンコの出玉に関しては、店側による何らかの作為が介在する事を大筋で認めたと言います。

更には、経営者がビジネスの視点から持つ最大の関心事は恒常的な一定の利益の確保にあり、よって収益を安定させる為の投資は一切惜しまないとも言っていたとのこと。

以上の事が一体何を意味するのか、わかる人なら瞬時にわかるでしょう。

彼が言うには、店長等、雇われ人レベルの人間には知らされていない、かなり赤裸々なその内幕を聞いた時、何故この過当競争の時代に一定以上の利益を確保出来るのかが理解出来る気がした・・・ということです。

それはパチンコに対する単なる打ち手の視点と、マネージメント・サイドからの視点は全くの別物であるという事を意味しています。

つまり、様々な利権が交錯するパチンコ業界という巨大な市場において、確率論を頑なに信じている、そしてパチンコがフェアな娯楽という幻想を持っている多数の“疑うことを知らない人々”が存在する限り、パチンコ産業は安泰であるということです。

いかにして客からより多くのお金を搾り取るか

パチンコ人口は、1990年代中ごろの約2,900万人のピークから年々減少し続け、今ではおよそ半分ほどの規模に縮小してしまいました。

にもかかわらず、メーカーが発表する台のサイクルは年々短くなってきており、パチンコ1台当たりの価格も、最近では有名人とのタイアップ等で高騰してきています。

そうすると当然、一人当たりからより多くのお金を搾り取る以外、業界が存続する道はありません。

そのためにパチンコ業界は一丸となって、業界全体でいろいろなことを行ってきました。

例えば、昔であれば100円単位で玉を買うことが出来たのに、今では500円単位で玉を買わなければいけません。

また、1万円札を千円札に両替する両替機などは、最近ではほとんどのホールで撤去されています。

「台の横に付いているサンドで1万円札を使えるのだから必要無いじゃないか」という意見もあるかもしれませんが、これも人間の心理を考えたものであり、少しでも遊技客に「今、自分はドンドンお金を使っている」という意識を持たせないための工夫なのです。

また、メーカーが作る台そのものにも、少しでも遊技客が多くお金を使うような工夫がなされています。

その代表的なものが、潜伏確変機能（小当たりも含む）だと言えるでしょう。これは客側に「潜伏確変が入っているかもしれないから、今やめるわけにはいかない」と思わせ、より多くのお金を使わせるためです。

また、これは私のこれまでの実践データでも明らかなのですが、今のパチンコというのは、1台にお金を使い続けるとハマる傾向があります。

つまり、お客がドンドンとお金をサンドに投入している時間というのは、ホールの売り上げもドンドン上がっているということなので、その売り上げに水を差すような大当たりは抽選されにくいのです。

これをわかりやすく言えば、「1万円使って当たらない台は、2万円～3万円使っても当たらない」

もしくは、「当たる台は1万円です」と言っても、そう遠くはありません。

これは、今のパチンコの大当たりシステムによって起こる現象だということと言えます。

つまり、今のパチンコは大当たりする台が極端に少ない時間帯と、大当たりする台が多い時間帯が存在するのです。

そう解釈すれば、ほとんどの台が大当たりしていない時間帯に、2万円も3万円もつぎ込むことが、いかにムダかということがわかると思います。

しかしながら人間の心理としては、投資金額が1万円を超え、2万円、3万円とつぎ込んでしまうと、「いくらなんでも、そろそろ出るだろう」と思ってしまうものです。

そして、「もし自分がやめた後に他人が座り、500円でオカマを掘られたらどうしよう」という恐怖にもかられます。

結果、「ここでやめたらもったいない」という気持ちになり、気が付けば過剰投資となり、やっと引いた大当たりは単発、そしてその出玉も全部飲まれてジ・エンド・・・という結果になって、「今日はツキが無かった・・・」と無理やり自分を納得させます。

本当はツキが無かったのではなく、ホール側の罠にまんまと嵌ってしまっただけであるにもかかわらずです。

そもそも、なぜその時間帯に大当たりする台がわずかしかないかというと、それはその時間帯の還元率が低いからであり、ホールが客からせせとお金を回収している時間帯だからです。

そんな時に幸運にも大当たりを引けたとしても単発がせいぜいだし、その後持ち玉で継続勝負しても、全部飲まれるのがオチです。

いえ、単発分の玉が出るならまだ良い方で、機種によっては2ラウンド通常という、実質大当たりは引いているのに、出玉の無い当たりを引いてしまうことが多いのも、回収時間の特徴といえます。

ちなみに、そういう出玉の無い当たりを仕込んだ機種をメーカーが作るようになったのも、大当たり回数を水増しして、少しでも「良く出ている」という印象を遊技客に持ってもらうためです。

この人間が持つ当たり前の心理・感情を利用し、それに基づいたプログラムなりシステムを組み、少しでも多くのお金を遊技客に使わせるようにしているのが今のパチンコであり、ホール経営なのです。

以上のことは、先に述べた印象操作にも繋がっています。

もし仮に今のパチンコが完全独立抽選方式で、常にその機種のスペック通りの大当たり確率で抽選されているとすれば、ホールは出玉の波を意図的に作ることは出来なくなり、全くの運まかせ、偶然まかせの経営をしなくてはなりません。

午前中に一度、出玉の波を作ってドル箱を積み上げ、午後から来るお客に対して「よく出ている」という印象を持たすことも出来なければ、サラリーマンが来店する夕方から夜にかけての出玉の波を演出することも、偶然まかせの経営では出来ません。

そしてその出玉演出が出来なければ、経営を存続するために何よりも大事な、“近隣のライバル店との差別化”が出来なくなってしまいます。

先ほど出てきた関東一円に店舗を有するパチンコ・チェーンのオーナー社長のセリフである「経営者がビジネスの視点から持つ最大の関心事は恒常的な一定の利益の確保にあり、よって収益を安定させる為の投資は一切惜しまない。」ということの意味を、もう一度よく考えてみて下さい。

つまり、パチンコで勝ち組になろうと思えば、それらのことを十分に認識して、逆にそのパチンコの特性を利用した立ち回りをするのが絶対に必要だということなのです。

ホールが仕掛ける出玉のメリハリを見極めることが、勝ち組への第一歩

年金の支給日になると、パチンコ店は完全な回収モードとなり、店長は店内を歩くのが怖いと思うほど、殺伐とした雰囲気になると言う話を耳にします。

また、大規模な新台入れ替えの前には、私がいつも行くホールほどの店も、明らかに回収モードとなります。

これは、人気があって長い稼働が期待出来る新台が稼働すれば、しばらくの間は客に出玉のサービスをしななければならないため、その利益を新台稼働の1週間前くらいからストックするために他なりません。

ホール経営というのは、このように出玉のメリハリを、然るべき時期に調整することによって成り立っていると言うことが出来ます。

ただ単純にホールの利益という数字上のことだけであれば、わざわざ出玉の調整をしなくても、全く公平な機械まかせの経営をしようが、出玉の調整をしようが、稼働率が同じなら収益も同じになります。

なぜならホール内には膨大な数の台があるのですから、多少の出る台、出ない台は確率のブレによって現れても、“大数の法則”によって確率は収束されるのですから。

ただし、経営という観点で見た場合、パチンコを打つのは人間なのですから、人間の心理を考えた出玉調整をしなければなりません。

出したい日、出したい時間、出したいシマ、出したいコーナーはその時期によってホール側の意思が必ず反映されているものだし、角台にドル箱を積むという演出ひとつ取り上げても、その効果は大きいのです。

以上のように、自然にまかせた確率論とホール側の意図的な操作では、店の利益は大幅に違ってきます。

だったらその点に着目し、ホール側が客寄せのために甘く使っている機種だけをいつも打つようにすれば、それだけで結果は付いてくるのです。具体的な立ち回り方法については後述しますが、その点だけは知っておいて下さい。

なお、このようなことを主張すれば相変わらず「パチンコは確率論のみで攻略できるものであり、釘が全て」などと反論される方がいますが、私の実践データでは、事実そうになっていないのだから仕方ありません。

また、これはある筋から得た情報なのですが、パチンコ情報誌や漫画のモデルに登場する“自称パチプロ”と言っている人たちで、まともに打って勝っている人は存在しないそうです。

また、そんな人たちに限って、自分の盲信する理論以外で実際に勝っている人の存在を認めないばかりか、批判までする人が多いのには困ったものです。

どの業界でもそうですが、他人を不幸にするような情報を自分の利益のためだけに発信する人というのは多いものです。

とくにパチンコ業界にいたっては、様々な利権がからんでいるだけに、その傾向が他の業界よりも顕著といえるかもしれません。

結局、信じられるのは自分で苦労して蓄積した実践データだけです。

つまりは、自分が実際にホールにおいて実践し、その結果を分析することでのみ、真実が見えてくるということです。

そして私がこれまでの実践から得た結論として、パチンコという娯楽は、パチンコとは何かという本質を見極めた上での、経験に裏付けされた立ち回りが全てであると言えます。

私はこれまでの実践を全て、こと細かくデータに保存しており、そのデータを分析することでパチンコの嘘と真実を見極めることが出来ましたし、また、どう立ち回ればパチンコで勝つことが出来るかを知ることも出来ました。

しかしながら、理論だけで反論してくる方たちというのは、例外無く全員が私のように膨大な実践データを有しておらず、頭でっかちの算数だけを根拠に反論してきます。

パチンコは単なる娯楽やゲームではありません。

利益を追求する企業・産業であり、れっきとした博打稼業なのです。

極論すれば、パチンコに算数、計算などは不要であり、経験論が全てです。

つまり、搾取する側による作為を認識した上で、どう凌いでいくかの方法論とその局面における判断が全てであり、それさえ体得すれば、少なくとも負け組にはなりません。

一方、ボーダー理論や確率論等という小手先の理屈に頼る人々は、なんらかの作為の前には全くの無力であり、パチンコを含む博打の世界では一生負け組であると言い切ります。

確率の収束という唯一の武器を頼りに、今日は運が無く負けたけれども理屈では勝てるはず、自分の立ち回りは間違っていないと自らを慰めるのですが、勝負事は結果が全てです。

たとえそれで勝っている人が多少なりとも存在するとしても、他の全てのことを犠牲にし、朝から晩まで腰痛と悪い空気に苛まれながら、手にする金銭はサラリーマン程度。

しかも社会的に認められない存在と蔑まれ、税金も払わないのだから社会に貢献もしていなければ、無職扱いでローンすら組めません。

そもそも、ボーダー理論では300分の1の機種を長期で打ち続ければ、いずれ300分の1に収束すると言いますが、それは当たり前の話であり、一体何が偉いというのでしょうか。

私だったら、大当たり確率300分の1の機種を打ち続ければ、200分の1くらいに収束させることが出来ます。

それは、波のおいしいところだけ、ホールの出したいところだけを打つからそうなるわけであり、事実、私の実践データではそれくらいの数字が出ています。

そして私のパチンコにおけるスタンスは、週に3~4日、本業の合間の1~2時間だけホールに行ってパチンコを打ち、月に20万円ほどのお小遣いを得るというものです。

パチンコとの付き合いなんて、その程度で十分だと私は考えます。

単に小銭が欲しいのであれば、アルバイトをした方がよほど健全で確実だし、将来的に大きな資産を築きたいというのであれば、投資を覚えればいいのです。

メーカーが作る昨今のパチンコ台の特徴

パチンコメーカーが作る台に関しても、多くの人知らない事実があります。ここでは、例としてシリーズものについて考察してみることにします。

大手パチンコメーカーは、各々が人気機種シリーズを持っていることは周知の通りです。

三洋であればなんといっても「海物語」、京楽なら「必殺仕事人」や「冬のソナタ」、最近では「AKB48」とのタイアップものが人気です。

そしてSANKYOは「アクエリオン」や「タイガーマスク」、「ガンダム」など人気アニメとのタイアップが多く、またSANKYOのグループ企業であるビスティは「エヴァンゲリオン」、ニューギンは「花の慶次」、サミーは「北斗の拳」などなど…。

これら人気機種シリーズというのは、各メーカーにとっての生命線とも言えるものです。

なぜなら、その人気機種を何台販売出来るかで、その年のメーカー全体の売上が大きく変わってくるからです。

これらの人気シリーズですが、例えば全く同じスペックであったとしても、初代、2代目、3代目・・・と代を重ねる度に、甘い味付けだったり、辛い味付けだったりします。

共通した部分としては、初代はやはり、より多くのファンを取り込むためのシリーズもかなり甘い味付けとなっています。

例えばMAX機の初代「花の慶次」も、その大当たり確率からは信じられないほどポンポン大当たりを引くことができ、「慶次さえ打っていれば勝てる」というような状態でした。

ところが2代目である「花の慶次～斬」は初代と比較して明らかに辛い味付けとなっており、「初代ほど勝てなくなってしまった」と、多くのファンをガッカリさせました。

そして3代目の「花の慶次～愛」では再び初代に近い甘い味付けが復活し、長い期間稼働し続けました。

このように、同じようなスペックであるにもかかわらず、台の味付けが違うのには理由があります。

メーカーの立場からすれば、顧客はホールであって、遊技客ではありません。つまり、シリーズ物が新しくなる度に、いかにホール側に多くの台を買ってもらうかを考えた機種開発をしなければならないわけです。

そこで、単純に辛い味付けの台ばかりを開発しては、早々に客が飛んでしまって空き台だらけの状態となり、そうすると次のシリーズをホールに買ってもらう時に、「前回の台は早々に客が飛んでしまったから、今回は半分でいいよ」と言われてしまいます。

だからといって、甘い味付けの台ばかりを毎回開発しては、長い期間、固定客が付いてしまって、今度は「まだ前の台の稼働が良いのに、新しい台を出すのは早いでしょ？まだウチは当分、旧台でいくよ」ということになってしまいます。

その辺のホール側とのかけ引きがあるので、シリーズ物で同じようなスペックの台でも、前作が甘かったら次は辛い・・・というようなメリハリを付けるようになるわけです。

私たち一般のパチンコファンからすれば、そんなかけ引きなんてどうでもいい話なのですが、そういったメーカーの思惑に振り回されてしまうのは、結局なにも知らないパチンコファンということになってしまいます。

ですから、少なくとも新台が出たからといってすぐに飛びつくのではなく、まずはその台が本当に勝ちやすいかどうか、実はスペック以上に辛い味付けになっていないかをまずは冷静に判断すべきです。

また、ホール側からしてみても、その新台を一定期間稼働してみて、実際にどれくらいの客付きがあるのか、そしてどれくらいの利益を得ることが出来るのかを見極めた上でなければ、その機種を長く大事に使うかどうかの判断は出来ません。

そこでホールが、「今回の新台はダメだ。この機種はあまり長く持ちそうに無い」と判断してしまえば、新台導入直後といえども回収機種になってしまう可能性だ

ってあります。

その点だけ押さえておけば、各メーカーの人気シリーズを賢く打ち続けることが、もっとも安定した収支を出し続けることに繋がることは間違いありません。

それから、ホールの目立たない一角に、「なんだ、この機種は？」というような、何だかよくわからない機種が設置されているのを目にすることがあると思います。

そういった台というのは、メーカーがホールに対して、人気機種と抱き合わせで無理やり購入させた台である場合がほとんどです。

ホール側からすれば、欲しくもない台を高いお金でなかば無理やり買わされたようなものですから、新台でまだ少しでも客が付いているうちに、一日も早く機械代を回収したいはずですよ。

そんな台はたとえ新台であったとしても、打つべきではありません。

初物ロットとは？

「CR ぱちんこ AKB48」が登場した時、1時間に1度、ホールに設置されているAKB48が全台いっせいにライブを始める演出が話題を呼びました。

しかもそのライブの曲が、1週間ごとに新曲が追加されていくという演出まであり、「今のパチンコはこんなことまで出来るのか！」と驚いたファンも多いかと思えます。

これは、RTC（リアルタイムクロック）機能というもののなのですが、こんなことが出来るのなら、時間の経過によって大当たり確率や連チャン性能も変えることが出来るのでは？という憶測も出てきて当然ではないでしょうか？

実際、「CR ぱちんこ AKB48」が稼働し始めた後、しばらくの間はよく当たって連チャンしていたのに、最近は全く連チャンしなくなったと感じている人も多いようです。

これは、ある地方の大型チェーン店の元店員の方の話ですが、新台入れ替えが終わった後で、店長から新台の取り扱い方について言われた内容は、「今度の新台はしばらく連チャンするから、うまくアピールするように」というものだったそうです。

「しばらく連チャンする」とはどういうことかというのと、「初物ロット」と呼ばれるメーカー仕様の特別に甘い基板が存在しており、その「初物ロット」は新台を大量に購入する大手のホールへ優先的に納品されていたというのです。

「初物ロット」については違法ではなく、正規のメーカーが作るれっきとした、検定に合格した基板です。

その、基本スペックよりも甘い「初物ロット」を、資金力のあるホールはある程度の量をまとめ買いしてイベントに活用したり、あるいは角台などの見せ台として使っていたといえます。

そして初物ロットの中には、一定の期間が経過した後に、連チャンしなくなるものもあったそうです。

それは元店員の彼がメーカーの営業マン立ち会いの元に聞いた話であり、時間の経過とともに甘い確率からノーマルな基板になるというのです。

例えば「ぱちんこ AKB48」の RTC 機能と同じように、大当たり確率や連チャン性能がメーカーの思惑通りに、ある一定の期間が経過すると下がるのだとすれば、それはメーカーにとって最も都合の良いプログラムということになります。

なぜなら、その機能によってしばらくの間は良く出るので高い稼働を維持でき、ホールからすれば、「やっぱり〇〇の〇〇シリーズの新台は客付きが良い」という好印象を持ってもらえて、次の新台も多く購入してくれます。

さらには、次の新台をホールに購入してほしいと思うタイミングで大当たり確率や連チャン性能が下がるようにプログラムしておけば、その頃合いに客離れが起こるので、やはりホールに次の新台を購入してもらえるキッカケになるでしょう。

以上のことからわかるのは、メーカーは自社が主導権を握れるような台開発をしているということです。

今のパチンコ業界の力関係というのは、メーカーの一人勝ち状態だとよく言われます。

それは確かに、パチンコ人口が毎年減少しており、ホールの台所事情も年々厳しくなっている今の状況で、いつまでもメーカーが殿様商売をすることなどは不可能でしょう。

しかし、今までに何の努力もせずに機械任せにしてきたホール業界の現状では、やはり台そのものを作っているメーカー・サイドの手の平で転がされていると言っても、そう遠くはないと私は思います。

それだったら、そんなメーカーとホールの利害関係に、打ち手側が付き合う必要は全くありません。

むしろ、上手く立ち回れる自由が打ち手側にはあるのですから、これを利用しない手は無いです。

一日1時間で年間200万円稼ぐための立ち回り術

さて、いよいよここからは、私がもっとも効率的に収支を積み重ねることが出来ると考える立ち回りの、具体的な方法について書いていくことにします。

なお、この立ち回りについては、ここまで上に書いてきた内容と、今のパチンコの様々な特性、さらには“ギャンブルとして見たパチンコ”というものの特性を踏まえた上で、収支を積み重ねるためにもっとも効果的であると私が判断したのとなっています。

そのため、このレポートに書いてある内容全てとリンクしていますので、出来れば何度も読み返して頂き、“腹に落ちる”状態になるまで理解して頂ければと思います。

なお、立ち回りの方法そのものは非常にシンプルなものであり、誰もが簡単に実践出来る内容となっています。

しかしながら、方法そのものはさほど重要ではなく、まずはなぜ自分がそのような行動を取るのかという理由を理解し、それを継続することが何よりも大事です。

なぜなら、そこを理解していなければ、自分の行動そのものに疑問を持ってしまい、その行動にブレが生じてしまうことになって、結果、継続することが困難になってしまうからです。

人間というのは弱い生き物で、行動に少しでもブレが生じてしまうと、それがそのうち大きな心の揺れとなり、効果が実感出来ないまま無駄なお金と時間を費やしてしまうことにもなりかねません。

何事も継続しなければ、結果を出すことは出来ません。そのことだけはしっかりと肝に銘じていただき、以下に記す内容をしっかりと理解し、そしてブレない行動を継続してほしいと思います。

さて、それでは立ち回りの方法を具体的に説明していきますが、まず、その内容を箇条書きにしたものが以下になります。

- 【鉄則その1】長期稼働が見込まれる新台または海物語シリーズだけを打つ
- 【鉄則その2】ある程度、稼働のあるシマで打つことが基本
- 【鉄則その3】無抽選と思われる時間帯には打たない
- 【鉄則その4】台選びは実績で判断し、見込み台が無ければ打たない
- 【鉄則その5】投資上限額は必ず決めておく
- 【鉄則その6】勝ちと負けの本質を理解し、“勝率5割”を目指す
- 【鉄則その7】ボラティリティの高さを常に意識する
- 【鉄則その8】大当たり終了後は、一旦リセットする
- 【鉄則その9】1年間でいくら勝ったかを重視する
- 【鉄則その10】磨き込み作業で、さらなる収支アップを目指す

以上のように、10個の鉄則というかたちで行動する指針をまとめています。

そして、なぜそのような行動を取るのかの説明を以下に書いていますので、一つ一つしっかりと読んでいただき、ぜひ十分に理解した上で行動するようにして下さい。

【鉄則その1】長期稼働が見込まれる新台または海物語シリーズだけを打つ

ホールが行う経営戦略というのは、日本全国どこのホールもだいたい同じでパターンです。

それは、極論すれば「出すか、出さないか」ということに集約されるわけですが、その「出す・出さない」にも、いろいろとメリハリを付けており、その1つが機種ごとの「出す・出さない」のすみ分けです。

基本的にホール側は、現在使っている機種について、大雑把に分けると以下のようなすみ分けをしています。

- ・新台で長期稼働が見込める機種
- ・常連客が付いている海物語シリーズ
- ・短期稼働が前提の機種
- ・撤去対象機種

この中で、打つべき候補となるのは上の2つであり、下の2つについては、たとえ試し打ち目的でも打つべきではありません。

短期稼働が前提の機種というのは、上で書いたような“メーカーが人気機種とお抱えで売りつけた機種”や、“メーカーとの付き合いで4~5台だけ買った機種”などになります。

また場合によっては、本命台として大量購入したけれども、思ったほど人気が出ずに早々に空き台だらけになってしまった機種も、短期稼働が前提となるでしょう。

いずれにしてもそういった“売りに貢献しないダメな機種”については、中古台としても高く売れないし、ホール側は「早いうちに機械代を回収したい」と考えます。

そんな機種を打つということは、ホールに機械代を献上する行為でしかありません。

では次に、打つべき候補の2つについてですが、私はその中でもホールが“新台で長期稼働が見込める機種”をメインに打つことをお勧めします。

その理由の一つが、上にも書いた“初物ロットと新規基板の存在”です。これはメーカーによっても傾向が違いますが、新台導入されてしばらくの間は、あきらかによく出る機種というのはけっこう多いのです。極端な話、そういった台だけを打つだけで、月に30万円くらい勝ててしまう時期もあったりします。

私が常々言っていることですが、「パチンコは連チャンで勝つ」ものであり、いくら初当たりを引いたところで、連チャンしてくれなければパチンコで収支を積み上げることは難しいのです。

パチンコで長期的に収支を積み上げようと思えば、とにかく連チャンする可能性の高い台を打つことが何よりも大事になってきます。

これは言い換えれば、たまに大勝ち出来る可能性のある台を打たなければならないということであり、その可能性の高い台こそが、“新台で長期稼働が見込める機種”なのです。

また、もう一つの理由は至極単純な話で、長期稼働が見込める新台については、ホールも客を飛ばさないように必死です。

一度お客が遠のいてしまったら、二度と戻って来ないというシビアな現状をホール側もよくわかっていますから、基本的にはホール内において長期稼働が見込める新台というのは大事に扱いますし、客寄せ目的に使うことが多いのです。

簡単にいえば、新台を出して客寄せして、あぶれた客が座る他のシマで回収する、という戦略ですね。

そうであれば、たとえ新台が満席だったとしても、わざわざ回収目的の他の機種を打つ必要は全く無く、別のホールに行くか、いっそ打たずに家に帰った方がよほどマシなのです。

なお、もう1つの打つべき候補として上に挙げた海物語シリーズについてですが、海物語シリーズは常連客も多くついているし、まんべんなく出しているホールも多いです。

私の過去の実践結果でも、「海物語さえ打っていれば、そこそこは勝てる」という時代もありました。

しかし、今では“海神話”も崩れてきており、海物語のシマを回収に使うホールも多くなってきています。

その原因はズバリ、新台入れ替えサイクルが昔と比較すると、極端に短くなっているからでしょう。

ホールが回収期間に突入するのは、大規模な新台入れ替えを行う前と、新台が稼働を始めた時の「新台以外の台」に対してです。

新台入れ替えを行う前の期間にホールが回収に走るのは、新台入れ替え資金を回収するという目的と、新台自体の出玉を一定期間はサービスしなければならないためです。

要するに今のホール経営というのは、良くも悪くも新台を中心とした戦略を取らざるを得ないというのが現状となっています。

そして、今のように新台入れ替えサイクルが短くなってしまった現状では、ホールは年がら年中、新台以外の機種については回収しなければならなくなってしまっています。

だから、かつてはよく出していた海物語も、今ではホール側の台所事情で昔ほどは出せなくなったという裏事情があるのです。

つまり、新台以外の機種では、今のパチンコというのは、何台も別積みするような爆出しをするシマを作ることは出来なくなっています。

以上のことを総合的に踏まえて考えると、“新台で長期稼働が見込める機種”を打つことが、もっとも収支を積み重ねるためには効率が良いということになり、海物語については、「常連客のためによく出している日」であれば打つ価値ありといったところでしょう。

ただ、注意しなければならないのは、昨今のように新台入れ替えサイクルが極端に短くなっている現状では、人気の新台でさえも回収に使うことが多くなってきているということです。

次の新台導入費用を回収するために、今の新台からお金を回収しなければならないという悪循環が繰り返されている現状なので、新台といえども、その賞味期限は生モノのように短いと考えておかないといけません。

【鉄則その2】ある程度、稼働のあるシマで打つことが基本

ある程度の稼働があるシマで打つことは、パチンコで勝つための全ての基本になります。

その理由は複数ありますが、いろいろな要素を加味し、勝つための立ち回りを追求すれば、結果的に稼働の高いシマで打つことが、いろいろと有利に働くのです。

まず、ホールがシマ単位での還元率を設定する場合、稼働の高いシマを見ることで、その日そのホールがその機種に対して、どれくらい力を入れているのかがわかります。

例えば大当たり実績が0回の台ばかりだったり、あるいはせいぜい1回とか3回とかの1ケタの台が多く、大当たり回数10回を超えるような台がほとんど無いような日は、そのシマは回収日であることがわかります。

そんな日に運よく大当たりを引いたとしても、やはり他の台と同じように単発とか1セットで終わってしまう場合が多いですから、それは「パチンコは連チャンで勝つ」に反する立ち回りということになり、この場合は打たないという判断をしなければいけません。

しかしそういった判断も、稼働率がある程度あるからこそ出来るわけであり、もしこれがシマ内に2~3人しか座っていないような状態だったとしたら、わずかにそれだけのデータだけでは、その日のホールのやる気というのは見えてきません。

つまり「データの信憑性」という意味で、稼働率の高いシマを選ぶ必要があるわけです。

もっとも、【鉄則その1】で書いたような、ホールが力を入れている新台のシマなのに、ガラガラの状態なんていうホールでは最初から打つべきではありませんが。

そして、稼働率の高いシマで打つするには、もう一つ理由があります。今のパチンコというのは、1台1台が独立して大当たりの波を形成しているのではなく、複数の台が相互に作用しあってシマ全体の波を形成していると私は考えます。

そうするとどういった現象が起こるかということ、稼働率が高ければ高いほど出玉の波が大きくなるのです。

つまり、単純にシマ内で大当たりする台も多く出てくるし、ハマる台も出てくる代わりに、大量の出玉を吐き出す台の割合も増えます。

要するに、多くの台が稼働することによってシマ全体に活気が出てきて、出玉にメリハリが出てくるということですね。

こういう状態というのは、大きく連チャンする可能性のある台があるということですから、これは「パチンコは連チャンで勝つ」ということにも合致した状態なので、打つ価値あり、ということになります。

【鉄則その3】無抽選と思われる時間帯には打たない

今のパチンコは、1台1台が独立して大当たりの波を形成しているのではなく、シマ単位で波を形成していると書きました。

そしてその波というのは、大きく分けて放出時間と回収時間に分類できます。

ホールで実際に打っていてよく目にする光景で、ほぼ満席近い状態であるにもかかわらず、1台も大当たりしていない時間帯というのが存在します。

そのような時というのは、自分の台でいくらデジタルを回してもアツい演出が起こらず、淡々と回転数を消化しているという感じになりますし、そういう時に周囲の台を見てみても、やはり同じようにアツい演出は起こっておらず、まるで大当たりの抽選をカットされているような気さえします。

また逆に、自分の台にアツい演出が起こる時というのは、周囲の台も同じようなタイミングで台が活性化することが多いのです。

こういった現象もやはり、シマ単位で出玉の波を形成しているからこそ起こる現象であり、どちらの時間帯に打てば大当たりを引きやすいかは明白です。

実際、私は以前に大当たり中の周囲の台だけを少額ずつ打っていくという実験をしたことがあります。結果は台の基本スペックより大幅に高い確率で大当たりを引くことが出来ました（詳しくは特典の「パチンコ攻略実験レポート」を読んで下さい）。

とくに人気機種の新台導入間もない頃は、夕方から夜にかけてのサラリーマンで賑わう時間帯など、全台の約半分の台が大当たり中という圧巻の光景を目にすることも、たまにですがあります。

もちろん、そういうシマ全体の台がアクティブな状態の時だけ打つようにすれば一番効率が良いですが、そんな時というのは滅多にあるものではありません。ですから私の場合、そこは必要以上にナーバスにならず、少なくとも周囲の台で大当たりしている台が1台も無い時は打たないようにしています。

ここで、周囲の台という定義ですが、例えばシマを20台一列とした場合、私はその一列をまずは2つに分けます。

シマの真ん中は柱などで区切られていたりしますが、その柱から奥の10台と、手前の10台は別のコーナーとして見るわけです。

ちなみに、この区切りで別の機種になっているホールも多いですね。

そしてこの10台の中で、1台も大当たりしている台が無い場合は、私は原則として打ちません。

また、私とその10台1コーナーでとくに意識して見るのが、データランプの数字です。

見るデータは2つだけで、「大当たり回数」と「現在の回転数」のみ。

大当たり回数については、【鉄則その2】で触れたように、大当たり回数が0回の台が多かったり、2回や3回の台ばかりであれば、たとえ大当たりを引けたとしても連チャンは期待出来ないのです、少なくともそのコーナーでは積極的に打ちません。

また、「現在の回転数」を見て、600回転や800回転のハマリ台が目立っていたり、1000回転オーバーの台が数台あったりしても、やはりその日は回収日であると判断しますし、また、そのグループでは少なくとも2~3時間は大当たりしてない台が多いということですから、回収タイムの真っ只中であると判断します。

そういうコーナーでは、やはり打たないようにしています。

【鉄則その4】台選びは実績で判断し、見込み台が無ければ打たない

打つ価値のあるホール、打つべき機種、そして周囲の状況を判断したあとは、いよいよ打つ台の選定です。

台選びが一番難しいと思っている人も多いかもしれませんが、実はそんなこともないのです。

今のパチンコというのは、ホール選び、機種選びでキチンとブレない判断をすることがまずは大事であり、あとは打つか打たないかの判断と、打ったあとの見切りの方が大事なのです。

つまり、台選びはそんなにナーバスになる必要はありません。

というのは、私が提唱する立ち回りというのは、本命台を1台に絞り込んで、その台を徹底的に打ち続けるというものではないからです。

私のこれまでの実践経験からすれば、確かに右肩上がりの波が数日間続いているような台というのは、当日も順調に右肩上がりの波を描くことが多いです。

ちなみに私が個別の台の波を読んで打つ場合には、「データロボ・サイトセブン」という月額500円の有料会員制サイトを利用します。

この会員になれば、そのサイトに登録しているホールで、なおかつ出玉データを公開しているホールであれば、自宅のパソコンから全ての台のスランプグラフを見ることが出来るので便利なのです。

しかし、いくら入念な台選びをしても、当日そのホールがその機種にあまり力を入れてないようであれば、やはり朝からハマることが多いし、初期投資がかさんでしまいます。

なので、私の場合は波攻略するにしても、午後以降にホールに入って実際のシマの状況を見てから打つべきかどうかを判断するのですが、そうすると今度は選んでおいた台はすでに空き台は無く、すでにドル箱を積んでいたりします。そうすると、せっかく準備してホールに行ったのに、まさに無駄骨ということになります。

それに、そもそもそのシマ全体が回収モード一色だったりすれば、私が選んでおいた台もやはりあまり出てないという結果になっていたりして、結局「あつちを立てればこっちが立たず」ということになり、無駄が多い立ち回りとなってしまいます。

まあ、そもそも波を読んだ立ち回りというのは、どちらかというと1台を長時間じっくりと打ち、ある程度の連チャンの波を捉えたところで勝ち逃げするという戦略がもっとも効果的なのですが、これもホールの台所事情が潤っている時代はまだ通用しましたが、最近ではなかなか思うように勝てなくなってきたという現状があります。

そんなわけで、最近では私も「データロボ・サイトセブン」を活用した波攻略は気が向いた時しかやらなくなりました。

というより、1台を長時間打つという立ち回りをするのでなければ、そもそもそんな神経質に打つ台を吟味する必要はありません。

私がこのマニュアルの中で推奨する立ち回りは、一日を通じて右肩上がりのランプグラフを描く台を、粘って打つというものではありません。

それよりもっと効率良く、たとえ一日中打って結果的に勝てないような台だとしても、その波の中から連チャンするオイシイ部分だけを頂いて勝ち逃げしましょうという立ち回りです。

そしてそのための私の台選びの基準はズバリ、当日の大当たり実績だけです。私の台選び基準は基本的に、「出る台はトコトン出る」というものであり、要はそのシマ内で、より多くの大当たり実績を記録している台ということになります。

例えば周囲の台の大当たり回数が平均7~8回くらいだとして、その中で突出して20回とか25回の大当たり実績の台が落ちていれば、迷わず打って様子を見ます。

また、大当たり実績が10回とか15回程度だとしても、その大当たり実績の履歴を確認して、前回の大当たりが5連チャン以上しているというように、調子が上がってきているような履歴であれば、やはり打って様子を見るようにしています。

あとは、そんなに連チャンはしていなくても、浅い回転数で大当たりをポンポン引き戻しているような“初当たりが軽い台”も、打ってみることがよくあります。

また、逆に私が見向きもしない台というのは、角台以外の台で大当たり実績がまだ無い台や単発、ワンセットで死んでしまっているような台、800回転を超えているハマリ台などです。

つまり、台選びについてはけっこう大雑把に見て、明らかに波の悪そうな台や、中途半端な台は打たないように心掛けているくらいのもので、そこまで吟味をしているわけでもありません。

それでも、台選び以前のホール全体の雰囲気とか、シマの状況、周囲の台の実績などを吟味した上で、最後に台選びをするという順序なので、1つのホールで過剰投資してしまうということにはなりません。

それどころか、1つのホールで打つ価値ありと私が判断する台というのは、せいぜい2台か3台くらいのものです。

その台にとりあえず千円~2千円打ってみて様子を見るということなので、何も無ければ1軒のホールで3~4千円くらいしか使わないことも多いのです。

また、ホール1軒あたりに使う金額は、せいぜいそれぐらいがベストだと私は思っています。

【鉄則その5】投資上限額は必ず決めておく

さて、次に投資金額についてもう少し詳しく書けば、私の場合、1台に使う金額は平均すると約2千円程度になっています。

ただし、そこは臨機応変に対応しており、千円ですぐ台移動する時もあるれば、最初から「この台には無条件に1万円までは打つ」と決めることも、たまにですがあります。

そこはホールの状況を見ながら、臨機応変に対応するのがいいでしょう。

例えば1日の投資上限額を1万円程度と決めている場合、最初のホールに入った時に、「お！今日は滅多にないほどの解放日だ！」と思えばそのホールで1万円使い切れればいいし、またそういうホールでお目当ての機種で良い履歴の台がたまたま空き台になっていれば、その1台だけに1万円使い切るつもりで打つのもいいでしょう。

ただ、そんな日というのは滅多に無いものなので、私の場合は実際に見込み台と思われる台で20回転ほど様子を見て、ノーマルリーチがせいぜいで、何も起こらずに淡々と回転数を消化しているような展開であれば、その時点でその台は見切ります。

そして、次に座った台ですぐにアツい演出が出るようであれば、2千円、3千円と追いかけるようにしています。

私の考えとしては、1台に1万円使って200回転させるのも、1台に千円、20回転ずつ10台打って合計で200回転させるのも、大当たりする確率は同じです。

ただしそれは、自分があくまでも“見込み台”として打っている場合であって、もしこれが「この台、大当たりする気がしないな・・・」などと感じながら打っているのであれば、おそらくその時は本当に大当たりする確率が下がっている時だと思えます。

要するに、自分が“見込み台”と思って打っているのであれば、1台に使う投資金額はさほど重要ではないのです。

それよりも、自分が決めた1日の投資上限を厳守することの方がよほど大事だし、また、その決められたお金の中で打つ台を吟味するという意識があれば、おのずと財布のヒモは固くなるし、より真剣に台選びするようになるというものです。

【鉄則その6】勝ちと負けの本質を理解し、“勝率5割”を目指す

賭け事で勝つためには、そこに理論的根拠が必要です。

その理論的根拠に沿った立ち回りをすることが勝ち組になるためには必須条件であり、ただ単に「この台は出そうだから」という思いだけで、目の前の台に座って打ち始めるというのは、その時点でもう負け組の取る行動であるといえます。

なので、勝ち組になるための理論的根拠に沿った行動だけを愚直に行い、それ以外の行動は取らないことを常に意識するようにならなければいけません。

そして何度も言いますが、パチンコで勝つためには「小さく負けて、大きく勝つ」が鉄則です。

このことはパチンコに限らず、投資にしても、他のどのギャンブルに関しても、この鉄則は当てはまります。

基本的にギャンブルというものは、勝率5割が基本的なラインであると私は考えます。

もちろん、そのギャンブルの種類によって変わってくるでしょうが、パチンコ、投資などは1日単位で見るとすれば、勝率5割を一つの目安にすると良いでしょう。

そしてパチンコにしても投資にしても、負け組の人というのは勝率10割にこだわってしまう人です。

例外なくそうであると私は思います。

本来、賭け事には“勝ち”と“負け”が存在するのに、毎日“勝ち”のみを追求することは、自然の摂理に反する行動といえます。

そして、自然の摂理に反する行動を毎日のように続けていけば、行きつく先は破産しかありません。

ただ、パチンコの場合は他のギャンブルとは違い、1玉4円を超えるレートというのは存在しませんから、お金持ちの人であれば破産まではいかないでしょう。

しかし、そこがパチンコという娯楽の怖いところでもあり、一度に大金を失う可能性が低いばかりに、負け組の人は将来、長期に渡って少しずつお金を吸い取られます。

そして、気が付けば驚くほどの大金をパチンコに費やしていた・・・ということになるのです。

なので、あなたは一刻も早く“自然の摂理に沿った”つまり、勝ちだけを追求するパチンコから脱却して、“将来に渡ってずっとパチンコからお金を得ることが出来る”立ち回り方法を身に付けなければいけません。

さて、では“勝ちにこだわらない”ことがどうして長期で見ると勝ちに繋がるのか？

そのことについて言及します。

要するにパチンコというのは丁半博打と同じで、その日勝つか負けるかは2つに1つという、とてもシンプルな勝敗結果を毎日展開することになります。

これが昔のパチンコ台であれば、物理的な攻略が可能な機種もあり、それこそ10割近い勝率を出し続けることも可能でした。

しかし今のパチンコはそういった物理的な攻略の余地は無く、台のプログラムの波と、ホールのさじ加減で勝つか負けるかが決まってしまう。

とするならば、ホールが客に還元する気が無い日に無理して打ったところで、そんな日は勝率5割どころか、1割とか2割くらいにしかありません。そんな日に勝ちにこだわり、ムキになってとことん勝負してしまうと、10万円くらい簡単に負けてしまうわけです。

また、打つ機種にしてもホールが出す気のある機種だけを打つ必要があり、ホールが回収機種に指定した台を打てば、やはり勝率はガクンと落ちてしまうのはすでに述べた通りです。

なので、ホールが客に還元する気のある機種を打つことが、勝率を上げるためには必要になってきます。以上のことを意識し、毎日パチンコを打って初めて勝率5割を達成出来ると思って下さい。

つまり、パチンコでは他のギャンブルとは違い、勝率5割を目指そうと思えば、「今日はこのホールでは打たない」あるいは「いっそ今日は1台も打たずに家に帰る」という判断をすることも、当然の立ち回りであると言えます。

そして、たとえ一日の上限投資額を1万円と決めている場合であっても、当たりを引かないまま5千円でその日の実践を終えることもあるし、1円も使わないままホール移動するか、あるいはそのまま打たずに帰宅する日もあって当然なのです。

【鉄則その7】ボラティリティの高さを常に意識する

勝率5割をキープしつつ、なおかつ長期で勝ち組になろうと思えば、勝った日の平均収支額と、負けた日の平均収支額は、

勝った日の平均収支額 > 負けた日の平均収支額

にならないと、長期での勝ちには達成出来ません。

理屈としては小学生でもわかることですが、これがよく言われる「小さく負けて、大きく勝つ」という意味です。

さて、では“大きく勝つ”と“小さく負ける”の意味をそれぞれ考えてみましょう。

まず“小さく負ける”は非常に簡単なことで、これは

- ・ 打つ・打たないの判断を的確にし、それを厳守する。
- ・ 1日に使う金額、1台に投資する金額を判断し、それを厳守する。

このことに尽きるといっていいでしょう。

この“小さく負ける”ことに関しては、賭け事において、唯一自分が調整出来ることですから、キッチリと厳守しなければいけません。

そもそも、賭け事で大きく損をしてしまう人というのは、この部分を守れていないことがほとんどです。

たまに大きな勝ちを獲得したところで、毎回大きく負けていけば加速度的にお金は無くなっていきますから、これは「小さく負けて、大きく勝つ」とは正反対の行動であることから、まさに負けるための行動であると言えます。

一方、“大きく勝つ”ということの意味を考えてみましょう。

パチンコで大きく勝とうと思った場合、2つの方法があります。

それは、

- ・ 1台を長時間打ち続け、多くの出玉を獲得する。
- ・ 短時間勝負で、一度の大当たりで連チャンし、多くの出玉を獲得する。

このどちらかになります。

しかしながら、1台を長時間打ち続けるという方法というのは、今のパチンコの特性から見れば、効率が悪いことはすでに述べた通りです。

それにこの打ち方では、大きく勝つ可能性と大きく負ける可能性が同じくらいあり、これでは「小さく負けて、大きく勝つ」ではなくて、「大きく負けて、大きく勝つ」になってしまいます。

なので、もっとも効率良くパチンコで収支を上げる方法は、やはり短時間勝負ということになります。

そして、あなたがパチンコを打つ時に、常に意識しておいてほしいのが“ボラティリティ”という言葉です。

もともと“ボラティリティ”の意味は、株価など資産価格の変動の激しさを表す言葉なのですが、ギャンブルにおいては、このボラティリティが高い状態であれば、長期的に見て勝つことは非常に困難になってきます。

次の図を見て欲しいのですが、これはパチンコ台で、“ボラティリティの低い状態”のスランプグラフを図で示したものです。

1. ボラティリティが低い状態



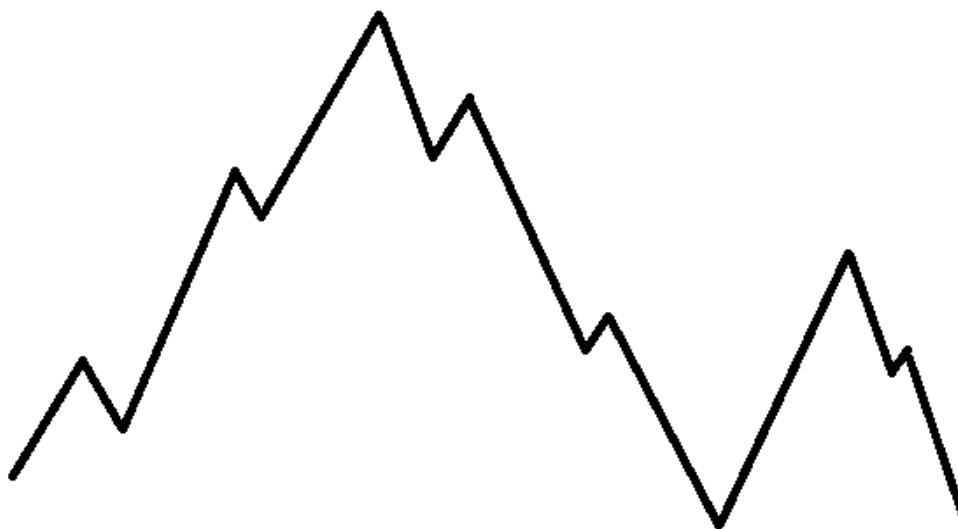
このグラフの中では、どこの部分で大当たりを引いたとしても、そんなに大きくは勝てません。

このような“ボラティリティの低い状態”の実践を毎日繰り返したところで、それは小さい勝ち負けを繰り返すばかりで、なかなか思うように収支を積み上げることは出来ないでしょう。

なぜならそれは、“小さく負けて、小さく勝つ”を毎日繰り返しているにすぎないからです。

では次に、“ボラティリティが高い状態”のスランプグラフを示してみます。

2. ボラティリティが高い状態



このグラフの中では、大当たりを引いた時に大勝ち出来るポイントがいくつかありますね。

もうわかると思いますが、上のグラフは甘デジやライトスペックなどの大当たり確率の高い機種であり、一方、下のグラフは一撃出玉が期待出来るミドルスペック～MAXタイプの機種です。

このことから言えるのは、

・甘デジ、ライトスペック・・・短時間の実践には向かず、右肩上がりのスランプグラフを描くような台を予想し、一日中打って収支を積み上げる立ち回りに向く。

・ミドルスペック、MAXタイプ・・・短時間勝負に向き、一日中打って収支がトントンとなるような波の台でも、大きく勝てるポイントがある。

ということです。

先ほどの“ボラティリティが低い状態”のグラフも、この“ボラティリティが高い状態”のグラフも、同じように一日中打てば収支はトントンになるグラフとなっていることに注目して下さい。

要するに、1つの台を長時間打つという行為は、ホールの回収時間も放出時間もずっと打ち続け、最終的にその機種の基本スペック通りの大当たり確率と平均連チャン数に近づくということです。

これはまさに、ボーダー理論での打ち方ですね。

一方、ホールが出す日、力を入れている機種、そして大当たりが期待出来る時間帯、波の良い状態の台を打つことだけを徹底していれば、長期で見ても、その機種の基本スペックの大当たり確率と平均連チャン数を大きく上回る数字に収束されることは、私のこれまでの実践データからも明らかです。

よく、ボーダー理論でパチンコを打っている人は、「千回ハマリなんて日常茶飯事であり、そのハマリを自力で乗り越えなければパチンコは勝てない」などと言われます。

しかし私などは、しょっちゅう台移動を繰り返しながら打つという立ち回りをしていますが、大当たりを引けなかった回転数を足しても千回ハマリなんて年に1回あるかどうかのレベルです。

これはもちろん、日を越えた場合の回転数も足した場合の話ですから、千回もハマる（およそ5万円も使って一度も大当たりを引けない）立ち回りなんて、アホらしくてやってられないと思ってしまう。

話が少しそれましたが、短時間勝負にもっとも適した機種、それはミドルスペック～MAXタイプの機種であり、そういった爆発性を持った機種が人気シリーズの新台として登場した時というのが、もっとも収支がアップします。

過去の例で言えば、初代「CR 牙狼」などはその代表格とも言うべき機種であり、この「CR 牙狼」などは潜伏確変や2ラウンド当たり、ラウンド数の振り分けなども無く、1回の大当たりで必ず1,700個ほどの出玉がありました。つまり一日の大当たり回数が30回を記録した台であれば、その台は確実にドル箱30個ほどの出玉を吐き出しているということです。

しかし、今は規制が厳しくなってしまったので、同じ大当たり確率が約400分の1のMAXタイプの機種でも、潜伏確変や2ラウンド当たり、ラウンド数の振り分けなどがあるために、一日の大当たり回数が30回でも、実はドル箱20箱も出ていないというケースも多々あります。

それでもホールが出す気があり、なおかつ良い波の台だけを打っていれば、驚くほどの連チャンを記録してくれることがあるのがMAXタイプの機種です。

よく「MAX機種は怖いから、甘デジやライトスペックの機種を打つ」という人がいますが、私からすればそれは、せっかく大きく収支を計上出来るチャンスを、みすみす逃してしまっていることになります。

そういった爆発性の高い台が人気機種としてホールに新台導入されることは年に何回かありますが、その時こそボラティリティが高くなる時期と言えます。また、その時期こそが大きく勝てるチャンスであり、それが年間でのトータル収支に大きく貢献してくれるのです。

【鉄則その8】大当たり終了後は、一旦リセットする

次は、ヤメ時についてです。

大当たりを引けなかった日のヤメ時については、イコール“一日の上限投資額”ということですから、そこは問題無いでしょう。

なので、問題となるのは、大当たりを引いた場合のヤメ時です。

といっても、何も難しく考える必要はありません。
大当たりを消化した後は、一旦リセットすればいいのです。

大当たりが終わった後、一旦席を外してトイレに行くなりして休憩しましょう。
そして 2~3 分ほど休憩したら台に戻り、その台を“新たな見込み台”として 20 回転~30 回転させ、それで何の反応も無ければ、潔くやめればいいのです。

もちろん、大当たりが終了した後は 1 回転も回さずに即ヤメしても、何の問題
もありません。
なぜならそれは、最初からその台を打たなかったという判断をしたのと同じな
のですから。

私の場合も、単発を引こうが 1 セットで終わろうが、あるいは 10 連チャン以上
しようが、ほとんどの場合が即ヤメするか、あるいは 20 回転~30 回転させて様
子見し、何の動きも無ければやめるようにしています。

そして基本的に一日 1 回の大当たりを引くことが出来れば良しと考え、連チャン
してくれればラッキーだし、また例えば 4 千円使った時点で単発しか引けな
かった場合は、その日の収支はプラマイ 0 で良しとします。

また、一日の上限投資額を 1 万円と決めている場合に、その日 4 千円使った時
点で大当たりを引いたとして、さらにその後も引き続き残り 6 千円分の勝負を
するかどうかについては、どちらでも良いと思います。

私の場合は、少なくともその日は負けなかったという気分のまま帰りたと思
うのですが、そこは自分が見込み台と判断した台をその後も打ち、そして一日
の投資上限額を厳守さえしていれば、とくに問題は無いでしょう。

【鉄則その9】1年間でいくら勝ったかを重視する

日々パチンコを打っていると、どうしてもその日の結果、あるいは今月の成績を気にするものです。

先ほど上で、爆発性の高い機種が人気機種としてホールに新台導入されることが年に何回かあり、その時こそ大きく勝てるチャンスであり、それが年間でのトータル収支に大きく貢献すると書きました。

しかしこれを逆に解釈すると、人気の新台がしばらく出ない時期などは、一ヶ月が丸々回収日ということもあり、場合によってはそういった時期の一ヶ月の収支がマイナスとなる可能性もあるわけです。

そんな時期は我慢のパチンコを強いられて、人によってはストレスを感じるかもしれません。

毎日のようにホールは覗くけれども、どのホールも回収ムードが漂っていて、本来であれば打たないという選択をすべきところを我慢出来ずに打ってしまう・・・ということもあるでしょう。

そんな時期でも、このマニュアルに書かれた内容に従い、投資金額を控えめにしてキチンと立ち回っていれば、月単位でもマイナスになることはまず無いと思います。

ただ、ぜひとも肝に銘じておいて欲しいのは、一ヶ月に30万円勝てる時もあれば、毎日打ってもプラマイ0の月もあるのがパチンコというギャンブルの自然な姿なのです。

普通、毎日パチンコを打って、一ヶ月で収支がプラマイ0だったら自分の立ち回りに自信が持てなくなるかもしれないし、アホらしくてやってられないと思うかもしれません。

でも、そんな我慢の時期を乗り切れば、大きく勝てるチャンスは必ず来ます。なので、パチンコでの収支は「1年間でいくら勝ったか」ということを重視して欲しいのです。

【鉄則その10】磨き込み作業で、さらなる収支アップを目指す

何事もそうですが、パチンコも実践と反省の繰り返しを常に行うことによって、パチンコの腕前は格段にアップします。

そのために必ず習慣付けてほしいのが、実践表（収支表）だけは必ず付けるということ。

それが無いと、自分の立ち回りに“磨き込み作業”をすることが出来ないからです。

誰だって最初のうちは手探り状態で始めるものだし、どうしても無駄な投資をしてしまうものです。

頭ではわかっているけど、それが行動に伴うようになるまでには時間がかかるのが人間というものですから。

なので、最初の一ヶ月はなかなかコツがつかめずに、打つ・打たないの判断をするのが難しく感じられるかもしれません。

しかしそれは誰でも同じです。

文章で伝わることは限界がありますし、日々の実践を繰り返して、体で覚えるしかありません。

そして、少しでも早くコツをつかみ、より効率的な立ち回りをするためにも実践表を付けることが不可欠となります。

実践表を付けていれば、あとでその実践表を見直すことにより、

- ・ どのホールで勝っていて、どのホールで負けているのか？
- ・ どの機種が勝率が良く、どの機種が勝率が悪いのか？
- ・ どんな状態の台で大当たりを引くことが出来ているのか？
- ・ 時期、あるいは曜日などによって勝率は変わってくるのか？
- ・ 最適な投資額はどれくらいなのか？

などが明確に見えてきますし、その他にもいろんなことが見えてきます。

そして明日からの立ち回りにその反省点を加味することで、もしかしたら来年は今年の2倍の収支を上げることも出来るかもしれません。

パチンコを取り巻く環境は日々変わっています。

今までは通用した方法が、1年後には通用しないということも、もしかしたらあるかもしれません。

しかし、実践表をキチンと付けていて、“磨き込み作業”をすることによって、その変化に対応することは十分可能です。

そういう意味でも、実践表は必ず付けるようにしましょう。

最後に

ここまで【鉄則】としていろいろなことを書いてきましたが、その半分がメンタル的なことであり、立ち回りそのものは決して難しくないことにぜひ気付いてほしいと思います。

立ち回りという部分だけで考えると、あなたが勝ち組になるための行動というのは驚くほど簡単であり、人によっては「え、それだけでいいの?」と思った人もいらっしゃるかもしれません。

でも、極論すればパチンコなどは、ホール側によるさじ加減を意識した上でどう立ち回るかの方法論と、その局面における判断と行動が全てです。

その点だけ意識して立ち回っていれば絶対に負け組にはならないし、よりシビアに行動することで年間200万円くらいなら、十分に勝つことが出来るものです。

また最後に、あなたがパチンコを打つ上において、常に意識しておいてほしい方程式を書いておきます。

収支額 = 回収額 - 投資額

これは小学生でもわかる引き算の方程式ですが、この方程式の本質を理解している人というのは、本当に少ないのです。

これをホール側の立場から見れば、遊技客の「収支額」を大きなマイナスに持っていこうとすれば、「投資額」をいかに大きくさせるかが生命線になってきます。

そして様々な工夫を凝らし、遊技客に出来るだけ多くパチンコに時間を費やしてもらおうというのがホール側の狙いです。

例えば台の横にテレビ画面を付けているホール、休憩スペースに大量の漫画本や雑誌などを置き、マッサージチェアまで無料で使えるようにしているホール、それら全ては、遊技客に少しでも長く店内にいらさせてもらって、より多くの「投資額」を使ってもらおうという魂胆なのです。

そして、より多くの「投資額」を使ってもらいさえすれば、上に書いた方程式により、自動的に遊技客の「収支額」のマイナスは増大します。

今のパチンコは、台の稼働する時間が長くなれば、それに比例して店側の利益も大きくなっていくシステムになっています。

なので、店側としてはいろんな工夫で客を店内に留めておき、少しでも多くの時間をパチンコに費やしてもらいさえすれば、あとは自動的に利益が上がるというわけです。

では逆に、パチンコで勝ち組になろうと思えば、あなたはこれと全く反対の行動を取れば良いということになります。

つまり先ほどの方程式、

$$\text{収支額} = \text{回収額} - \text{投資額}$$

の「投資額」をいかに少なく抑えるか・・・が、まさに“勝ち組”と“負け組”の分岐点になると思って下さい。

要するに今のパチンコは「いかに打つか?」ということよりも、「いかに打たないか?」の判断をすることが大切だということです。

私が知る限り、パチンコで勝っている人は例外無く「投資額」を少なく抑える努力をしていますし、より多い収支を出している人ほど、やはり「投資額」を少なく抑えているものです。

パチンコを打つ多くの方は、「パチンコは金のかかる遊びだ」と思い込んでいます。

しかしそれは業界全体がパチンコファンに、より多くのお金を使ってもらうために行った印象操作の結果、そう思い込んでいるだけにすぎません。

お金を使うのはあくまで打つ側であり、そしていくらお金を使うかは、打ち手の自由なのです。

お金をそんなに使わずにパチンコを打つ方法はいくらでもあるし、ミドルスペックやMAXタイプの機種を打つにしても、「大金をつぎ込まないとパチンコは大当たりしない」ではなく、「1,000円使って大当たりを引けない台は、見込みが無い」と思った方が、パチンコは結果的に勝てるものなのです。

そんな意識を持ってホールを歩いてみると、打つ価値のある台はそんなに多くないですし、本気で勝とうと思って打つのであれば、パチンコは実はそんなに多くのお金を必要としないギャンブルだということを、ぜひ知ってほしいのです。

なお、具体的な実践例につきましては、私自身の実践日記を自身のブログにて今後も公開していくつもりですので、ぜひ参考にして頂ければと思います。

それでは、あなたの勝利を祈っています。
ありがとうございました。

大市民

大市民の「百戦危うからず！」

<http://www.pachinko1.com>